

神戸三田キャンパス講座

<都市・地域の環境と社会生活への影響>

私たちの暮らしと音環境

○講師プロフィール

宮川 雅充(みやかわ まさみつ)

関西学院大学総合政策学部教授。

京都大学大学院工学研究科環境工学専攻博士後期課程修了。博士(工学)。

専門は環境衛生学。健康や Quality of Life (QOL) に注目した研究に従事。

○講義概要

音は、日常生活において、私たちにたくさんの情報を与えてくれます。しかし、その一方で、あらゆる音は騒音源にもなりえます。本講義では、私たちの暮らしと音環境の関わりを考えます。具体的には、音の性質、音や騒音の評価方法について説明します。さらに、音(騒音)が人々に与える影響について国内外の研究知見を紹介しながら、騒音政策のあり方について皆さんと考えたいと思います。

○参考文献等

講義中に、適宜、紹介します。

空き家の増加と世帯構造の変化

○講師プロフィール

清水陽子(しみず ようこ)

関西学院大学総合政策学部 教授。博士(学術)、一級建築士

専門は都市計画、まちづくり。住環境、土地利用、コミュニティをキーワードに人口減少社会における住環境、土地利用計画と地域コミュニティの在り方に取り組んでいる。民間企業勤務後、奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了。奈良女子大学社会連携センター特任助教、佛教大学社会学部専任講師を経て、関西学院大学総合政策学部准教授、2019 年より現職。

○講義概要

人口が減少している社会において「空き家」は新たな地域課題として注目され、これから世帯数減少が進むとともに深刻化していくものと考えられます。住宅や不動産はこれまで安定した資産として所有することが社会的地位を現すと見なされてきました。しかし、近年は「負」動産などの呼ばれ方もあり、空き家＝良くないものという傾向も見られます。所有者にとって財産でもあり、思い出でもある空き家は住宅ストックとして有効に活用できるものも多く、地域の資源にもなり得ます。空き家発生の背景や近年の世帯構造の変化、住宅選択の傾向について、データや調査結果を踏まえ解説し、その対策として地域での取り組み事例を紹介します。

○参考文献等

米山 秀隆「空き家急増の真実」日本経済新聞出版社、2012 年
野澤千絵「老いた家 衰えぬ街 住まいを終活する」講談社、2018 年

大気汚染の改善が健康に与える影響

○講師プロフィール

西立野 修平(にしたての しゅうへい)

関西学院大学准教授。オーストラリア国立大学クロフォードスクール公共政策大学院博士課程修了(Ph.D)。専門は国際経済学と環境経済学。近年は、日本で実施された大気汚染対策の政策評価について研究を行っている。最近の業績に “Have Vehicle Registration Restrictions Improved Urban Air Quality in Japan? (*Contemporary Economic Policy*, 2020)”がある。

○講義概要

大気汚染によって死亡する 5 歳未満の子供は世界で年間 60 万人にいます。大気汚染は特に低所得国の都市圏で深刻な状況にあり、自動車の排ガスなどによって引き起こされています。排ガス対策は、本当に大気汚染を改善し、幼児の死亡率を低下させるのでしょうか。今回の講義では、日本の都市部で実施された排ガス対策「自動車 NOx・PM 法」が、大気中の浮遊状粒子物質濃度を低下させ、乳児(1歳未満児)の死亡を減少させたのか、統計分析を通じて明らかにします。

○参考文献等

Nishitateno, Shuhei, and Burke, Paul. 2020. [Forthcoming]. "Have Vehicle Registration Restrictions Improved Urban Air Quality in Japan?". *Contemporary Economic Policy*.